

< 朝鮮通信使絵巻の基礎的分析と教育教材開発 >

研究年度 平成 30 年度

研究代表者名 松尾晋一

共同研究者名 山口華代

I. 研究の概要

長崎県が所有する文化財の価値の再検証とその活用を検証する素材として朝鮮通信使絵巻（県立対馬民俗資料館蔵）を用い、国内外の朝鮮通信使絵巻との比較分析からその特質を解明し、本学学生で社会科の教職を目指す学生とともに教育機関（中学・高校）での教材活用のあり方に関して検討していくことを目的とした。

具体的には、前者について実際の通信使行列の構成を復元するための文献調査を行い、行列絵巻に描かれている人びとの役職・構成などを付き合わせる作業をした。後者については朝鮮通信使を題材としたワークシートの開発、および教育プログラムの開発を行った。

III. 研究の取り組みと課題

・朝鮮通信使絵巻の分析

朝鮮通信使関係に関する論文の収集を行い、その中から朝鮮通信使絵巻の分析に関する論文の抽出を行った。その数は少なく、先行研究として田代和生「朝鮮通信使行列絵巻の研究--正徳元年(1711)の絵巻仕立てを中心に」（『朝鮮学報』137、朝鮮学会、1990年。）、李元植『朝鮮通信使の研究』（思文閣出版、1997年）以外まとまったものはなかった。この点をふまえ、具体的な分析を長崎県所蔵のものを使って行った（担当：山口）。その内容は、下記の通りである。

ユネスコ「世界の記憶」に登録された朝鮮通信使関係記録のうち、長崎歴史民俗資料館所蔵の朝鮮通信使絵巻2種（以下、対馬歴民本）を素材に、鑑賞のためのポイントを解説するとともに、行列の再現性や絵巻の真実性について、他の行列図や文献資料をもとに考察した。

正徳度（1711年）の通信使行列絵巻は、幕府の命令を受けた対馬藩によって制作されたことが分かる絵巻である。この絵巻を行列の再現性という点で最も信頼のお

けるものとしたうえで対馬歴民本との比較したところ、対馬歴民本についても行列構成や朝鮮官人の衣装や乗り物にいたるまで、かなりの精度で描かれていたことが判明した。

最後に、近年発見された個人蔵の通信使行列絵巻を紹介した。当該絵巻は対馬歴民本の 1 つと酷似していることから写本と考えられるが、対馬歴民本には無い文字情報や画面が含まれていることから、更なる相互比較研究が必要性的について言及した。

・朝鮮通信使を題材としたワークシートの開発、および教育プログラムの開発

長崎県教育庁から「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」の研究主題である遠隔教育システムを用いた国内外の大学等の連携による教育効果の検証の一環として長崎県立対馬高等学校との遠隔教育を依頼されたことから、これと絡ませて行った。

教育内容として求められたのは、「対馬の歴史に関する基礎的な内容」であったことから、文化年間に実施された対馬府中（現厳原）での易地聘礼を題材とした。いきなり遠隔授業をしても生徒との距離感が縮まらず、対面授業に比べて教育効果が上がらないことも見込まれた。従って、まず対馬高校での対面授業をすることに決まった。授業も教室で行うだけではなく、フィールドワークも実施することにした。

教室での授業では、朝鮮通信使絵巻（県立対馬民俗資料館蔵）を用いるワークシートを作成し、フィールドワーク用のワークシートは「対州接鮮旅館図」（国立公文書館所蔵）を利用して作成した。日本史担当の先生と講義内容の検討など行うことで、より実践的なワークシートの開発など試みることができた。ただ、課題も残り、来年度以降教育効果の検証も試みる予定である。

Ⅲ. 研究成果と取り組みの情報発信

・講演

長崎歴史文化博物館 特集展示朝鮮通信使関連講座

山口華代「朝鮮通信使行列絵巻を読み解く」

日時 平成 31 年 2 月 9 日（土） 13:30～15:00

場所 長崎歴史文化博物館 1 階ホール

・取り組みに関する報道

2018. 12.14 NHK イブニング長崎

2019. 1.16 朝日新聞（長崎版） 「国内外の大学と連携授業」

2019. 2.16 長崎新聞 「外国語 歴史 学び深める」